



ニーモニク：語呂合わせと覚え歌

埼玉県環境科学国際センターの堀井さんからバトンを引き継ぎました国立環境研究所の松神と申します。堀井さんとは、昨年8月末に開催された国際学会で数年ぶりにお会いし、環境分析に係る若手研究者同士で楽しく和気あいあいお話を覚えています。

最近では、スマートフォンやインターネットのおかげで、自分の頭に記憶しなくてもあらゆる情報に瞬時にアクセスできる便利な時代となりました。しかし、自分の記憶力よりも最新のテクノロジーに依存する機会が増えているようにも感じています。数年前までは、電話番号の暗記に苦労し、語呂合わせを付けていた方もいらっしゃると思います。今でも、9696（クログロ）や2323（フサフサ）をはじめ、ホテルや英会話教室など、電話番号の数字にうまく文字を当てた広告が存在します。受験生の頃は、794年の平安京遷都を「鳴くよ（794）ウグイス平安京」で暗記するように、歴史年号や平方根に様々な覚え歌がありました。このような語呂合わせや覚え歌は英語にもあり、ニーモニク（mnemonics）として知られています。

「ニーモニク」という言葉には、コンピュータが実行可能な0と1からなる機械の言語を人間が理解しやすいように簡略化した英単語や記述の組み合わせに置き換えたものという意味があり、コンピュータ業界ではかなり前から一般的に使われていました。要するに覚え歌に限らず記憶を助ける様々な工夫という大きな意味をもって英語圏では用いられています。例えば、受験生の頃に暗記した元素の周期表のH He Li Be B C N O F Neには「水兵リーべ僕の船」という覚え歌があります。英語圏では「Happy Henry Likes Beer But Can Not Often Find N-E. 幸せなヘンリーはビールが大好き。でもN-Eがみつからないこともよくある。（N-Eはニューイングランドのビール醸造会社らしいが不詳）」というニーモニクがあるそうです。また、イオン化傾向の順番のK Ca Na Mg Al Zn Fe Ni Sn Pb (H) Cu Hg Ag Pt Auには「貸そうかな。まあ、あてにすんな。ひどすぎる、借金。」という覚え歌が知られていますが、英語圏では「Please Send Little Charlie McLean A Zebra If The Lean Horse Cannot Munch Sweet Grass Pleasantly. (K Na Li Ca Mg Al Zn Fe Sn Pb H Cu Hg Ag Au Pt) ちいさなチャーリー・マククリーンにシマウマを送ってください。もしもやせた馬がドジョウツナギを気持ちよく食べられなかったら。」というニーモニクがあるそうです。この場合は元素記号ではなく、Potassium や Sodi-

umのように元素の英語名を当てています。言葉や発想は違えども世界中に同じ意味のニーモニクがあり、ニーモニクにお国柄が出ているなんてとても面白いと思います（元素記号の順序をよく比較すると英語圏では逆転している箇所があります。これもお国柄でしょうか）。日本語では元素の頭文字を順番通りに並べて偶然できあがった単語を文章化するのに対し、英語圏ではなじみのある英単語に置き換えて文章化することで覚えやすいように工夫しています。このように音節を適当に並べれば何かしら単語らしいものができあがる日本語のニーモニクは、独特のものだそうです。

ところで、私がニーモニクに魅力を感じているのは、「楽に記憶できて、楽しんで暗記しよう。」という気持ちが入められているところです。例えば外国語を暗記する際に、音が似た身近な単語に置き換えて楽しく覚えようというのも一種のニーモニクだそうです。「What do you think about it?」が「悪酔い天下暴れ！」で通じるなんて驚きです。一方で「Ohio goes I moss.」をネイティブ風に発音すると「おはようございます。」に聞こえるそうです。暗記は面倒なものですが、このように工夫することでとても面白いものにもなります。楽しみ興味を持つと集中力や記憶力を維持する上で重要な脳の部位を健全な程度に活性化させる効果があると言われてるように、すんなり記憶されて時間が経っても思い出しやすい気がします。テクノロジーが発展し、一層便利な社会となっていくことを期待していますが、ニーモニクのような楽しい記憶方法も末永く残ってほしいものです。ニーモニクよ、永遠に。

今回のリレーエッセイは、京都大学工学部の藤森 崇先生にお願い致しました。環境分析に係る若手研究者の中で切磋琢磨できる重要な仲間の一人です。次号のエッセイを依頼した際は、快く引き受けて頂きありがとうございました。

最後に、本エッセイを書くにあたり以下の書籍を参考にさせていただきました。

友清里士：“英語のニーモニク～円周率から歴史年号・イギリス王室まで 覚え歌大集合”，（2001），（研究社）。

池谷裕二：“怖いぐらい通じるカタカナ英語の法則 ネイティブも驚いた画期的発音術”，（2012），（ブルーバックス）。

（国立環境研究所 松神秀徳）